

まちセン歴史講座（11月22日）宮代史跡マップを手にふるさと宮代の史跡探訪

「宮代の自然と歴史・文化を愛する会」 高橋弘美

絶好の日和のもと、まちセン「まち歩き歴史講座」が35名の参加で行われました。今年は異例の年となり多くの行事が中止、歴史講座もこれが初めての開催となりました。もちろん新型コロナウイルスの感染対策をしての開催で、参加者が重ならないようコースを右廻り・左廻りの2グループに分けて密を防止しました。

「宮代史跡マップ」は、まちセンサポーター会の史跡PJ（現「宮代の自然と歴史・文化を愛する会」）のメンバーが昨年1年間をかけて作成したマップです。ある方はパソコンで地図を描き、ある方は現地を確認、写真を撮るなど全員が参加しました。この史跡マップが使われ、多くの方の目に触れ作成に携わったものとして喜びを感じました。

今回は、道標や石碑を中心とした探訪で、それらから宮代のまち、人の動きなどを想像しながら興味深く探訪させて頂きました。また、南宮神社に多くの常夜灯が寄贈されているのを改めて確認し、神社北西の作事小屋が宮代小学校（明治6年

千之義校創設）であったことには驚きでした。毎朝作事小屋の前を何も考えずに通っていました。時代劇で見る寺子屋のようなものかと、想像をたくましくしました。一人の方から伊勢湾台風の時大きな木がこの小屋の前に倒れたことなど、この土地で育った人しか知らない話題が、このほかにもいろいろ聞いておもしろい探訪となりました。

また、大海人皇子（後の天武天皇）が休んだ石などの話があり、ここに天皇が、そういえば、南宮神社の稲荷神社に行く途中には、聖武天皇が不破頓宮に滞在し、大仏建立の碑が祀られています。最近私が読んだ「葉室 麟 碑の天空」にも聖武天皇が不破にお越しになったとの記載があり一層興味が湧きました。

センターに戻ると商工会から「悪疫終息祈願餅」の提供がありました。祈願成就後は、昔のいいところが一杯残っている宮代により興味をもち、まち散策が自由にできることを願わずにはおられません。

